

令和4年度 公民科「現代社会」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科 2年 1～6組
教科書	高等学校 新現代社会（第一学習社）	副教材等	最新現代社会資料集 2022（第一学習社）

1 学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間について理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第1編 私たちの生きる社会 第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 現代に生きる青年	現代社会の特質と社会生活の変化	オリエンテーション（授業形態、評価方法など） ・地球環境問題の現状と課題について理解する。 ・地球が抱えている資源・エネルギー問題について学び、未来に向けて資源・エネルギーの有効活用を展望する。 ・科学技術の発達と生命倫理との関係について理解する。 ・高度情報社会について学び、私たちの生活を考察する。	行動観察 ワークシート分析 レポート分析 発問への対応分析 中間考査
5		①青年期の意義と自己形成の課題 ②現代社会における青年の生き方 中間考査	・青年期の心理とパーソナリティについて学び、青年期が抱える諸問題を理解する。 ・青年期の人間関係について学び、現代社会に生きる青年としてどのように生きるべきかを考察する。	ノート点検
6	第2章 個人の尊重と法の支配 第3章 現代の民主政治と政治参加の意義	①民主政治における個人と国家 ②基本的人権と法の支配	・国家の定義を学び、私たちと政治の関わり、政治と国家との関わりについて理解する。 ・近代政治原理の成立について理解し、基本的人権の捉え方の変化と法の支配のあり方を学ぶ。	行動観察 発問への対応分析 ワークシート分析
7		①日本国憲法の基本原理 期末考査	・日本国憲法の成立過程を学び、日本国憲法の三つの基本原理が目指すものについて理解する。	期末考査 ノート点検
9	第4章 国際政治の動向と日本の役割	②平和主義と安全保障 ③基本的人権の保障と新しい人権 ④国民主権と議会制民主主義 ⑤内閣と行政の民主化 ⑥裁判所と人権保障 ⑦地方自治と住民の福祉 ⑧世論形成と政治参加	・平和主義の理念がなぜ日本国憲法に掲げられたのかを理解する。 ・日本の安全保障は、どのように確保されているのかを理解する。 ・憲法が保障する基本的人権の内容について理解し、併せて社会生活の急激な変化に伴って保障されるようになった新しい人権についても学ぶ。 ・議会制民主主義の原理を学び、国会の役割と権限について理解する。 ・議院内閣制のしくみと内閣の役割を学び、行政を民主化するための方策を考察する。 ・なぜ裁判が行われるのかを理解するとともに、裁判所の役割と裁判のしくみ、裁判員制度について学ぶ。 ・地方自治と国民の関わりを理解し、地方自治の現状と課題について考察する。	行動観察 発問への対応分析 レポート分析 ワークシート分析 中間考査
10		①国家主権と国際法 中間考査	・国民の政治参加の重要性について理解するとともに、改正された選挙制度や選挙のしくみについて学ぶ。 ・主権国家とは何かを学び、併せて国際法の内容と正確についても理解する。また、なぜ国際裁判が機能しにくいのかを考察する。	ノート点検
11		②国際連合の役割 ③核兵器の廃絶と国際平和	・国際連合の目的と役割を学び、現在国際連合が抱えている課題について理解する。 ・核兵器の廃絶が国際平和に不可欠であることを理解し、核廃絶を進めるためには何が必要かを考察する。	行動観察 ワークシート分析

12	第5章 現代の経済社会と私たちの生活	④国境と領土問題 ⑤外交政策と日本の役割 ①経済社会と経済体制 ②経済主体と企業の活動 ③市場経済のしくみ ④経済成長と景気変動 ⑤政府の経済的役割と租税の意義 ⑥金融機関のはたらき 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 世界中で起こっている領土問題・地域紛争を学ぶとともに、特に日本の領土問題についてはより深く理解する。 国際社会で日本が果たす役割を理解し、世界の国々が日本に期待すること、私たち一人ひとりができることを考察する。 経済の基本的なしくみを学び、資本主義経済・社会主義経済の特徴を理解する。 経済主体の活動、現代の企業の特徴について理解し、企業の社会的責任について考察する。 価格機構の基本的なはたらきについて学び、価格機構が作用しない状況や独占禁止法の目的を理解する。 国民所得は何によって決まるのか、景気はどのように変動するのかを理解する。 財政や財政政策を学び、日本の財政にはどのような課題があるのかを理解する。 金融の基本的なしくみを学び、金融機関と日本銀行の役割について理解する。 	発問への対応分析 期末考査 ノート点検
1	第6章 国際経済の動向と日本の役割	⑦戦後の日本経済の動き ⑧産業構造の変化 ⑨雇用と労働問題 ⑩公害の防止と環境保全 ⑪消費者保護と契約	<ul style="list-style-type: none"> 日本の高度経済成長がどのように実現したのかを理解し、併せてバブル経済の発生と破綻、平成不況に対する政策について学ぶ。 産業にはさまざまな分類があることを学び、発展のしくみや日本の産業が抱える課題について理解する。 なぜ労働者を守る憲法や法律があるのかを理解し、雇用事情の変化や日本が抱えている労働問題について学ぶ。 日本の公害問題の歴史や現状について学び、国や企業がどのように対応したのかを理解する。 消費者主権の重要性を理解し、企業が消費者に対して負う責任や政府の対策について学ぶ。 	行動観察 ワークシート分析 発問への対応分析 学年末考査
2		①国際経済のしくみと貿易の拡大 ②国際経済の動向	<ul style="list-style-type: none"> 貿易が必要な理由を学び、国際収支の動向や円高や円安が生じる理由についても理解する。 日本の貿易の特徴について理解する。また、アメリカやアジアなどの経済の現状はどうなっているのか、地域的経済統合によって何がもたらされるのかなどについてもより理解を深める。 	ノート点検
3		③発展途上国の経済と南北問題 学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> 南北問題が発生した理由、食糧問題の現状について理解し、併せて人口爆発にどのように対応していったらよいかについても考察する。 	

3 評価の観点

関心・意欲・態度	日頃から、教材として使用する教科書や資料、新聞やニュースを通じて、現代社会への興味関心を持ち、問題意識を高めている。また、ICTを活用しながら、自ら学ぼうとする意欲や態度を身に付けている。
思考・判断・表現	現代社会で起こっているさまざまな事象から課題を見だし、その原因ともなっている歴史の大きな流れや各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
資料活用の技能	現代社会に関する諸資料を収集し、その中から有用な情報を選択して、読みとったり、レポートなどにまとめたりする。
知識・理解	現代社会をはじめとする社会の基本的な事柄を身につけ、地理的条件や世界史、日本史と関連付けながら理解し、知識を身につけている。

4 評価の方法

<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度、思考・判断・表現、資料活用の技能及び知識・理解の4観点から総合的に評価する。 具体的には、定期考査（試験）を中心に、その他の学習活動（ノート、授業参加状況、レポート、宿題など）を加味する。 年間の成績は各学期の評価（1・2・3学期）を総合して、評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の様子を知るためには、毎日、新聞やニュースを見るのが大切です。常に問題意識を持ちながら最新の情報に触れることが、そのまま授業内容にもつながっていきます。 復習を重点に家庭学習に臨んでください。授業当日、家庭で最低30分以上の復習をやり授業内容をノートにまとめるよう努力しましょう。また、授業前に教科書に目を通すことも大切なので、一度読んで上で授業に臨みましょう。 ノートは単に板書事項を写すだけではなく、先生が話した内容や自分で気づいたこと、考えたこと、他者の意見なども記入するなどの工夫をし、後で学習の過程が把握できるようにしましょう。
